

元禄・文花の図

平成二十四年十月二日（火）

十二月二十四日（月）

藤岡家住宅 《展示室二階にて》

生け花550年に寄せて



はなこしらえさま



花拵様

七ツ道具出世の図

右ノ道具ニテ之ヲ立テル

63710016 奈良県五條市近内町526

NPO法人 うちのの館（やかた） ☎とファックス0747（22）4013

登録有形文化財 「藤岡家住宅」 2012年冬の展示

藤岡家所蔵「立花訓蒙図彙^{りっかくんもうざい}」（元禄八年・1695年〜元禄九年・1696年）には草木を七つの道具に見立て、「立花」という生け花の様式を作り上げる方法が記されています。「立花」は江戸時代の人々に好まれ、必修の教養となっていきました。本年平成二十四年（2012年）は、寛正三年（1462年）、東福寺の禅僧・太極による日記『碧山日録』に池坊専慶の名が花の名手として記されてより550年目です。供えるための花から発生した「花を生ける」ことが花道として成立したという歴史的な意味を持ちます。それに因み、藤岡家所蔵の花道の資料を展示します。文禄二年（1594年）、池坊専好（初代専好）は前田利家邸の大広間の四間（7・2畝）に松を活け、その後ろに猿の軸を配して秀吉から絶賛されたと伝えられています。今回は藤岡家所蔵 森狙仙「松に猿図」を生け花の資料とともに公開します。